

☆☆矢野目小学校教育目標☆☆互いを大切に、笑顔で協働する子ども

令和6年度矢野目小学校 学校だより

みんなの広場 2

笑顔があふれ、明日もまた来たくなる学校

2024.4.10 発行 No.3 文責 目黒 満

☆☆自ら学び、深く考えて行動する子ども☆☆心と体を鍛え、命を大切に子ども

昨日の雨・強風が唯のような寒やかな一日でした。でも温暖の差が大きい気候が続く予報もありますので、就寝時の寝具等の調整をお願いします。

早寝・早起き・朝ご飯

家庭と学校ががっちり手を繋ぐ2年目に

福島市教育委員会「働き方改革推進パッケージ」が策定されました

4月8日(月)付けで福島市長と教育長の連名により『質の高い学び』と『持続可能な学校』の実現に向けてという市民向けのメッセージが出されました。(正式版は届き次第配信します) また、記者会見では、「チャレンジ!働き方改革」という副題のついた学校の「働き方改革推進パッケージ」が公表されました。(右図資料)

本校でも、昨年の学校だより第2号等で、教員のなり手不足や欠員等の現状、働き方改革の方向性、教員の業務仕分け等の話題をご家庭に提供し、働き方改革についてご理解をいただきました。

今回の本市パッケージでは、「**未来に向けた10のチャレンジ**」として、本市の取組を示しています。本校では、昨年度から検討を重ね、今年度の取組としてこの4月からすでに進めていること、今年度計画していることが含まれています。改めて今年度の変更点・具体的な改革の内容をお知らせします。(本校該当の取組のみ)

「働き方改革推進パッケージ」～チャレンジ!働き方改革～

スローガン:「質の高い学び」と「持続可能な学校」の実現に向けて

これまでに教育委員会・学校の取組

項目	10月	11月
小学校	24.03%	15.77%
中学校	36.33%	30.13%
特別支援		
金平均	28.83%	21.41%

【教職員の勤務の実態】

- 勤務時間の前後には登校指導や授業の準備、部活動指導や保護者対応等がある
- 授業等が休むため、休憩を取ることが難しい状況がある

【未来に向けた「10」のチャレンジ】

- ICTのさらなる活用:職員会議資料等のペーパーレス化(R6年度100%)
- 教育課程の見直し:標準時数と上限とした授業時数の見直し
- 授業の質的改善:子どもを主語にした授業づくりの推進
- 部活動指導の負担軽減:部活動指導員の拡充
- 留守番電話の導入:R6年度より市内全校で実施
- 働き方改革モデル校の設置
- 企業等との連携:
- 評価の検討:
- 公会計の導入:
- 教職員の意識改革:

【未来の学校教育の姿】

- 教職員が心身ともに健康でやりがいをもって働くことができる学校
- 献身的な教員像に依存しない体制の確立
- 子どもたちに質の高い学びを提供し、「教育で選ばれるまち」を実現
- 子どもたちの豊かな学びと教職員の学びの時間の両立

- #1:ICT活用・ペーパーレス化**・・・校内会議、配付物等で進めています。今後もさらに進めます。
- #2:教育課程見直し**・・・令和6年度は、標準時数どおりの年間計画で進めます。日課表を見直し、下校時刻をどの学年も早めました。児童下校後の時間で授業準備や教材研究を充実させ、授業の改善・充実を図っています。
- #3:授業改善**・・・ICTの活用等で個別化をはかり、「わかる・できる」が実感でき、「子どもが学び取る」授業づくりを進めています。
- #5:留守番電話の導入**・・・本校でも午後6時以降は留守番電話対応とします。
- #8:評価の検討**・・・上学年では、A Iドリルを採用し、自動採点で子ども自身が自己評価でき、教師も子どもたちの評価を客観的に把握できるようにしていきます。評価・通知票配付を二期制とし、前期末と後期末の年2回の評価とします。
- #10:教職員の意識改革**・・・献身的な教師像に依存しない学校づくり、ワークライフバランスを大切に生活・勤務習慣の定着、心身の余裕をもって児童・保護者対応ができる環境づくり、笑顔で健康に仕事ができる学校づくりを進めています。

学校の日常の中で、多様な子どもたち同士だからこそ起きる人間関係のトラブルやちょっとしたケガ・事件等への対応では、一人一人を大切にしようとして神経を使うことも多々あります。

また、子どもは自分の都合の良い解釈をして、都合の良い情報しか保護者には伝えない場合も多々あります。大切なお子さんを預かっているからこそその責任の重さを感じながら、子どもや保護者の思いに寄り添った丁寧な対応を笑顔で、かつ心身に余裕をもってできるような学校づくり・働き方改革と授業改善を両輪として進めていきたいと考え、取り組んでいます。

こうした取組が、学校での質の高い学びと持続可能な学校の実現、また未来の学校教育の姿に繋がるものと考えます。今後とも、働き方改革へのご理解・ご協力、よろしく願います。